

米 欧 回 覧

第 9 号
編 集 ・ 発 行
米 欧 回 覧 の 会
事 務 局

ディスカッションに熱気こもる！

第七回例会、現未来部会担当で開催

第七回の例会が十月二十五日(土)午後一時より国際文化会館ホールにおいて開催された。なにかと行事の多い秋たけなわの土曜日だったこともあり、「残念ながら欠席」という会員も多かったが、それでも熱心な参加者は四十五名に及んだ。

会は浅沼晴男氏の司会で始まり、最初に泉三郎氏より会の現状について、続いて各部会の担当幹事よりそれぞれの活動内容についての報告があった。

午後一時四十分からは、現未来グループの担当により、「日本のモラルと教育を考える」をテーマにパネルディスカッションが行なわれた。第一部は「日本のモラルと

倫理」についてコーディネーター塚本弘氏、パネラー堀江洋之氏、多田幸子氏ですすめられ、コーヒープレークをさんでの第二部では「教育をどうするか」をテーマにコーディネーター郡山史郎氏、パネラー石川直義氏、大野照夫氏で行なわれた。

いずれも興味あるテーマなので会場からの発言も多く五時過ぎまで活発な議論が交わされた。また、会場の熱気はさめやらず、五時半からのスナックパーティにも三十数名が参加し、お酒の効用もあつてか一段と舌もなめらかに大変楽しい、内容の濃い会となった。

主な報告事項は下記のとおり……

- ・現在の会員数は百八十九名。賛助会費については四十四名の方から払い込みがありその額は五十万円に達した。この資金は主に「ニュース」などの会員間コミュニケーションの充実に当てたい。
- ・最近の岩倉使節団関連の文献についての紹介。
- ①岩倉翔子氏「岩倉使節団とイタリヤ」
- (京都大学学術出版会)
- ②富田仁氏の「岩倉使節団のパリ」(翰林書房)
- ③「日本と北西イングリランド」(大阪・マンチェスター・フォーラム)
- ・十二月六日の「映像の会」についての案内。



現未来グループでは先に一泊二日の合宿ミーティングがおこなわれましたが、そこで素晴しかったことは本音の議論が交わされたこととあり正反対の意見が談笑のうちに交わされたことでした。ある会員はそれを評して「世の中にはこれほど違う意見も見方もあるのか」ともりました。

第七回例会が大変充実したものになった理由も、この合宿の十一時間に及ぶ議論が土台となっています。

現未来部会に期待する

泉 三 郎

そして次々回の部会では政治システムに焦点があてられることになりそこでは当然、政治改革、選挙制度、議会制民主主義、安全保障、海外援助、国連などが論ぜられることになると思います。

日本列島をすっぽり覆うかのような閉塞感の中で、現代の直面する諸問題に真っ向から取り組み、なんとか建設的な意見を探り出そうとする意欲がこの部会の熱気をささえていると思います。

むろん問題がいかにも大きく広範にわたっているため、現段階では一見とらえどころがない状況にあります。しかし、問題点の輪郭は着実に浮び上ってきてい

るように思われます。今回はモラルや教育に焦点がつかれましたが、次回のテーマは経済や暮らしになります。そこではおそらく市場経済や規制緩和、グローバルズムや技術開発、資源浪費や環境問題、さらには欲望文明や知足文明自体が話題になるでしょう。

真剣に本音でぶつかりあいが鍛えあう場となり、一般社会にも充分に通じるだけの見識とビジョンと説得力を育む道場になっていくことを期待したいと思えます。

岩倉使節団を平成の時代に学び直す意味もそこにこそあろうかと思うからです。

パネル・ディスカッション

「現代日本社会のモラルと教育について」

実質三時間半にわたった議論をここで要約紹介すること
は大変むずかしい。そこで記者の独断によりアトラン
ダムに印象に残った発言を抄録して報告に代えたい。

塚本弘氏（司会）

グループ合宿における議論を最
初に紹介したい。大別すれば、伝
統を重んじる保守派と個人や自由
を重んじるリベラル派の立場にわ
かれる。

保守派はおおむねこう主張する。

「日本は古来道徳水準の高い国
で、いまでも基本的にはそいい
る。それは豊かな自然の中で育ま
れた調和を大切にす歴史風土が
生んだもので、それはまた多神教
である神道や仏教的精神に裏付け
されたものである。」

現代日本社会のモラルが低下し
ているのはいわば戦後のアメリカ
ニズムの悪しき面に毒された結果
であり、本来の日本的なよさを忘
れていることに問題がある。だか
ら、この際日本の伝統のよさをあ
らためて認識し、本来の日本精神
をとりもどすべきである。ただ、
日本社会の欠点としては個人が集
団に埋没してしまうこと、個人に
自主性がなく個人の責任がいま

いになる点がある。このことは大
いに反省して矯正していく必要が
ある」

一方リベラル派はこう主張する。
「日本の近代は欧米からいろいろ

第一部

「現代日本社会のモラルと倫理について」

ることを学んできたが、その根
つこにある真の個人主義や自由と
責任については学ばなかった。日
本独特の集団主義の甘さやマイナ
ス面が残存し、その弊害が今日の
無責任やわがまま、自由放縦を生
んでいる。

それは現代日本の企業倫理問題
にも明らかで、会社に忠誠をはか
るという口実で悪を働いていて恥
じないところがある。日本の伝統
に回帰するという方向はえてして
後ろ向きな国家主義や集団主義に
墮すおそれがある。
これからはそうではなく地球時

代に通用する普遍的な価値、近代
的個人主義、「人権や平和」を基
軸とした社会を形成していくこと
が重要である。」

堀江洋之氏（パネラー）

モラルの基本はごく簡単な当り
前のことを守ることにあるのでは
ないか。例えば、①親を大事にし
る。②先生を尊敬する。③ものを
大切にす。④嘘をつかない。
⑤弱者へのおもいやり、などな
どである。

いまでもちゃんとした家庭や旧
家ではそのような躰がおこなわれ

ている。現代日本社会でそれがな
いがしろにされているのは、家庭
の崩壊、核家族化、少子化、男女
同権のはきちがえ、未熟な民主教
育、テレビ・ラジオの影響、リー
ダーの腐敗などに原因がある。
だからモラルの再興は「人のふ
みおこなうべき道」をまず家庭で
きちんと教えることから始めるし
かないのではないか。

多田幸子氏（パネラー）

日本人の道徳は高いというが、
これまで多くの外国人とつきあっ
てきた経験からいえば、日本人の

商道徳はきわめて低いといわざる
をえない。長年外国人とビジネス
をやってきて少なくともこれまで
私は外国人にだまされたことはな
かったが、日本人にはいろいろ騙
され裏切られてきた。日本人は安
易に技術を盗んだり製品を真似し
たりし反省の色も無い。とくに女
だとみると軽視する。日本人が一
般にモラルが高いなどとはとても
いえない。

しかし、かつての日本人はそう
ではなかったと思う。江戸時代に



は「死んだらごめん」という言葉
があったというが、それは「生き
て以上はなんとしても約束を守
る」という意味であり当時は当り
前の倫理だった。だからたとえ
「会社のためになら悪いことをし
てもいい、それは責任感の一種だ」
という論理はおかしい。悪いこと
は悪いのであって弁解はきかない。

（会場からの意見）

* 教えるべき親や教師がダメな
のをどうするか。親や教師の再

教育を考えなくてはいけないの
ではないか。

* 親はもうできあがってしてい
まさら教育といっても無理・
だから次の世代に望みをかける
しかない。ここまで崩れてしま
ったものを建て直すには三代か
けてやるくらいのもりでなけ
ればだめだろう。

* 最近の企業スキャンダルをみ
ていると真に情けなくなる。大
会社の幹部がそろって頭を下げ
ている写真が世界中に報道され
ている。ただ、逮捕された人を
個人的に知っている者からする
と、決して個人としてのモラル
を非難する気にはなれない。そ
れは会社のためにやむをえずや
っているで、むしろ真面目な
責任感のある人が結果的に悪者
にされている。個人と集団、私
と公との関係をどう考えるか、
実に難しい問題だ。

* 個人を越えてどこまでを「私」
とし「公」とするのか。家庭か、
会社か、地域か、国家か、地球
全体か。キリスト教国では個人
が神との契約関係にあるから公
の範囲が広く国家に結び付き易
い。が、日本の場合は人間関係
重視の世界だから視野が狭く、
せいぜい家庭や会社までではな
いか。地域や国家はすでに視
野の圏外に放り出されている感
じだ。

郡山史郎氏(司会)

現在の日本のモラル、倫理に問題があるとすれば、それは戦後の憲法や教育のせいである。日本のように自らの国を自らの手で守ることもできず、したがってまた自らの外交をもちえない国は、常識的にいって独立国ではない。アメリカは平和憲法なるものを押し付け、日本の伝統を破壊し愛国心なき教育を強いた。それを唯々諾々として受け入れた日本は、今や道徳なき、国家意識なき、愛なき、金とグルメと物欲の世界となつてしまった。

民主教育だ、人権だといつてもアメリカにみるように、学校教育の退廃や家庭崩壊を招くとすればどうみるか。わが日本では、まず家族、そして社会、やがて国家という形で集団に対する自らの立場を認識し、その中からしっかりとした倫理を確立し教育していくのが正しい道ではないか。

石川直義氏(パネラー)

日本人が心の基盤をどこに置いて来たか、そのキーワードを明治維新以来の歴史から考えてみると

・ a) 終戦前までの九十年(明治維新から太平洋戦争の終戦まで)は「脱亜入欧」であり「富国強兵」だった。そこでは天皇、日本帝國天皇の軍隊・官僚、国家臣民に重

点がおかれた。

b) 戦後五十五年(終戦から現在)は欧米に追いつけ追い越せの経済発展主義で、「日本株式会社」「会社・官庁本位主義」、「学歴重視教育」に重点が置かれた。

c) そこで二十一世紀の日本はどうかといえ「入亜共生」をキーワードに、「家庭」、「コミュニティ」、「アジア共同体」に重点をおくべきではないのか。

「こころの教育」については日本にはいいものがあるのだし、それを家庭でしつけることが最重要だと考える。私は堀江さんの挙げられた徳目に新しく五つの項目を加えたい。

第二部 「こころの教育について」

①自分の意見をもつ。②友人をつくる。③歴史を学ぶ。④国際人をめざす。⑤心身共に健康たれ。結局は、個人個人の小さな決意の積み重ねであり、それが社会を動かしていくのではないか。

大野照夫氏(パネラー)

戦前の教育を考えた場合やはり重要なのは「教育勅語」だと思つている。そこには現代にも通じるものもあるが、天皇国家と直結し人権と抵触することも多い。

それに対して戦後の教育を考えた場合はやはり「憲法」が重要で

ある。読み直してみたら、この精神には素晴らしいものがあり、現実にはそれが正しく理解されていない運用もされていらないことに問題があると思つた。

そして戦争放棄の九条があるために日本は独立国でないという説があるが、私も実際そう思う。しかしそれはむしろ肯定的な意味であり、それぞれがグローバル時代の二十一世紀における日本のありかたを示している。これからの世界に日本が訴えられうる普遍性ある理念だと思つた。「平和憲法」をそのように積極的に解釈し、「人権」や「環境」をキーワードにし

て持続可能な人類の発展を志向したい。

会場からの意見

* 私は長年保育園をやっているし、我が家には子供が四人いる。その経験から申し上げるのだが、子供というのは本来自然に成長する力をもっていると思う。だからたとえば植物のように環境さえ整えてやればすくすくと育つ。もともと「教え、育てる」という考えが不遜なかもしれない。親は傍らからたすけるくらいのことしかできない。エデュケイトとは元来ひっぱり出す

という意味だというのが、そう考えるのが正しいのではないか。我が家の例でみると四人の子供は共同生活をしながら自然にそこで社会性やルールを体験的に学んでいる。

その点、核家族の場合社会性が育たない環境だといえる。

* わが家も子供が四人います。それも二人は先妻の子供、二人は私の連れ子です。一般的には非常に難しいケースですが、幸いにみんなまっとうに育つてもらう最後の子がここで結婚します。



私のところは共稼ぎだし住まいも小さなマンション、条件は非常に悪いのです。しかしそこで私が一つ心掛けたことはあたたかい夕食を用意することだけでした。働きながらですから大変ではありましたが、それくらいしか子供にしてやれなかつた。でもその貧しさと懸命さが子供のところに伝わったのだと思つています。

* 主権国家が厳然として存在する現代に、ボーダレス時代だから国家はもういらぬ、地球時

代だから地球市民だといいたい方は現実から遊離している。入亜という考えもどんなものか、国家エゴイズムがまだあきらかに存在する時代にそれは夢想に過ぎる。国家あつてこそその国民であり、日本人のアイデンティティではないか。最近欧州に旅してきたがどこへいっても「国家のために働くことをあたりまえのこと」としている。日本だけが国家をないがしろにして単なる地域住民になつてしまった。

* モラルの基本も単純なところにあるのではないか。「よいことをせよ、わるいことはするな」・・・簡単にいえばこれだけのことだ。

問題はそれにどれだけの厳しさを求めるかどうかである。それは小さな家庭のしつけの次元でも、より大きな政治問題についてたとえば右翼の脅迫をうけた場合でもいえることだ。かつての武士たちはその時自らの行動に命をかけた。だからこそ迫力があつた。いまは金や名誉や脅しで、すぐころんでしまう。いつの時代も少なくともリーダーたるもの、父親も含め、責任ある地位にある者は自らの行動に命をかけるくらいの気概がなくてははいけぬ。それが明治の毅然たる日本人から学ばべきこととの大切な点ではないか。

各分科会

活動だより

国際交流グループ
映像グループ

連絡代表 TEL 080-596-1589
浅沼晴男 FAX 0462-75-5634



平成九年八月三十日(土) 一泊二日のスケジュールで国際交流部会、映像部会共催でヨコハマ・ツアーのイベントが行われ三十名の参加者を得て楽しく爽やかな二日間を過ごした。これは岩倉使節団鹿島立ちゆかりの地ヨコハマを訪ねたもので、横浜開港資料館とマリタイムミュージアムを見学するとともに、横浜港大桟橋から旧埠頭の遺跡を实地に見た。

横浜テクノタワーホテルフアミールにチェックインしたあとはレクチャーと映像(ダイジェスト版三本)による会を持ち、夕食後フリーディスカッションが行われた。翌八月三十一日(日)は朝食後、ふたたび意見交換が行なわれ、午前十時にホテルをチェックアウトした。その後、参加者は金沢八景に史蹟を訪ねるグループ、八景島シーパラダイスへ行くグループ、ご婦人方で近隣の史家を訪ねるグループにわかれそれぞれオプション・ツアーを楽しんで同日午後後に全てのスケジュールを終えた。今回は国際交流部会・映像部会共催の企画と実施ではじめての試みであったが楽しく明るく有意義なイベントとして成功をおさめた。参加者の熱意と両部会の幹事団の結束で終了できたことをご報告し、感謝したい。尚、来年の旅の計画についてもいろいろ計画しています。ご意見、ご提案があればお寄せ下さい。

歴史グループ

連絡 半澤健市 TEL&FAX 03-3717-5576
(自宅) (できればファクスで)

〔現況〕
◎登録メンバー数は四一名。
◎部会を二回開きました。いずれも十数名出席です。
第一回 五月三日、自己紹介中心でした。
第二回 十月九日

「明治憲法成立事情」というテーマでノンフィクション作家水沢周氏の報告と討論を行いました。

日時 十一月二日(金) 午後六時半~九時

会場 国際文化会館 セミナールーム

テーマ 「明治憲法成立事情」 (二回目・これで完結予定)

前回に続いて水沢周氏の報告を中心におすすめ。初めの方にもわかるようにやります。 費 一、〇〇〇円 (六時から弁当を食べる人は一、七〇〇円プラス。 予約要)

〔今後のすすめ方〕

明治、大正、昭和という日本近現代を特色あるテーマを通して発表と討論を続けていきたいと考えています。暗中模索なので多数の参加と意見をお待ちしています。

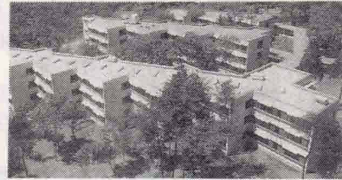
- ・ インターネットが普及するとモラルもいっただうなっていくのか。国境を取り払って考えなければならぬことが沢山あると思う。そうなるか「入宇宙共生」というより「入宇宙共生」を考えていかなければいけないのではないか。
- ・ 大変有意義な会だった。「判ってはいないが実現されない、早く日本の社会が変わらぬ」という思いを強くした。この成果をアクションにつなげたい。
- ・ 多様な意見がうかがえて興味深く充実した時間を過ごすことができた。会としては成功でこの形式は今後も継続していきたい。ただ、具体論、実践論が不足したのは今後の課題であろう。
- ・ 本来結論がでるテーマではないが、幅広い意見を聞くことができ感銘をうけた。これで終わりにせず今後さらに深めていくことが大切だ。
- ・ みなさん多彩な経験の持ち主なので、とてもフレッシュな感じで大いに刺激をうけた。希望をいえばもつ

第七回例会のアンケート(会場の声)から

- ・ と全員が自由に話せる工夫がほしい。
- ・ こういう「青臭い？」話題をいい大人たちがよく真面目に話してあるもの。だいたい意味で感心する。それだけ日本ではこの種の議論をする場所が少ないのかも知れない。いずれにしろ「それで自分はどうするか、どう行動するか」が問題だ。
- ・ いつも幅広いキャリアの方が出席されておりよい会だと思ふ。そして言い放しではなく、成果が結実していくよう気長な努力が望まれる。
- ・ さまざまなお立場の方の熱のこもったご意見をうかがえて有意義でした。なんらかの形でこれが社会に提言できるようにになるといいなと思ふ。
- ・ 教育、徳育の根本はやはり家庭にある、各人がそれぞれに確固とした判断基準をもてるように幼時より育成することが大切だと思ふ。
- ・ 二十世紀の国際社会にも有効かつ日本人のアイデンティティにも通じる思想をいかに構築していくか、それが楽しみです。

現未来グループ

TEL 03-3492-8553
FAX 03-3492-8144
連絡 郡山史郎



岩倉ミツシヨンは、明治日本の現在と未来を考え、国家設計を目指したグループといえます。その響に倣い、平成日本の現状を解析し、将来への提言、さらには何らかの行動につなげようと、まあそれほどはりきっているわけではありませんが、そのような目論見を持っています。

実際は楽しい、知的なサロンで、六月に第一回会合、九月に合宿を行ない、これらの会合の成果を踏まえて十月二十五日の例会では、現代日本人の倫理・モラル及び教育に関するパネルディスカッションを行いました。九月の合宿の議事録は、「現未来グループ第二回会合メモランダム」として出されていますので、ご希望の方に配布します。パネルディスカッションの内容も近日中に発行します。

ご参考迄に、九月の合宿で話し合われたグループ活動の性格について、メモランダムから引用します。

基本的に二つのプリンシプルがある。一つは楽しく、自由に、ユーモアを交えて、高度な知的会話をするサロン。もう一つは、単なる遊びで終わるのではなく、社会の改善、世直しに連がる具体的なビジョンをまとめ、出来たら行動に連がるものにする。

今後、三つのテーマにしよう。一つは倫理・モラルの問題を解明して、それを如何に教育につなげるか。二つめは社会の基盤である経済繁栄を、今後如何に方向づけるか。これには行財政改革、社会保障負担のあり方等がからみ、さらに環境、エネルギー、人口、食糧などの問題も考察する必要がある。第三は、政治改革、安全保障、憲法などを考慮した政治の在り方。これら三つのテーマを一つずつ、議論してまとめる。この順にやります。

今後の予定としては、「日本の経済の方向性・こうすれば良くなる。二十一世紀の日本の暮し(仮題)」を、十一月二十七日(木)午後六時半か

ら九時まで国際文化会館で論じたいと考えています。ご興味のある方は是非ご参加下さい。来年の前半くらいにはすべてのテーマを論じた上で、総まとめを行いたいと考えています。一体どんなものが出て来上がってくるか楽しみです。

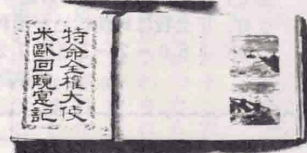
日本では今、沢山の本が出版されており、ゼミナール、討論会なども数限りなくありますが、「自分の考えを自分の言葉で」話し合い、それに皆が耳をかたむけ、行動につながるような一つの思想体系にまとめようなどというものは、あまりないでしょう。ドグマと迎合にあふれた薄っぺらな日本の思想界にご不満な方々に清新な気持ちをお味わっていただきたいと期待しているわけです。

現在メンバーは五十九名です。今後ともどうぞご支援をお願いします。



実記グループ

TEL 03-3239-1663
FAX 03-3239-1808
連絡 長谷川公一



「活動報告」

「実記」を続ぐグループは十月二日、第四回目の会合を開き、「第三巻、桑方斯西の記(上)」と、「第四巻桑方斯西の記(下)」(75頁、107頁)を参加者有志が輪読した。

出席者は毎回十五名前後。

「毎月第一木曜日」に集合し、実記の解説にチャレンジしている。参加者は進取の精神に富む「万年青年」ばかり。時折、遭遇する久米邦武の分りにくい漢語にもめげず、格調の高い簡潔で画像力を備えた名文にしばし酔いしれている。

年内は十一月六日と十二月四日。場所はクラウン・インターチェンジの青山ガーデンテラス。

午後六時半からスタートし、会費四千元。(飲食代こみ)

会員の声を掲載するページを設けたいと思います。

まず例会や部会に出席できない方、地方の方、海外の方からのお手紙や投稿を歓迎します。率直なご意見、感想などお聞かせください。

それから例会や部会に出席できても質問、意見、感想をいう機会がなかった方からの投書も歓迎します。

掲示板「VOICE」ページ開設!!

またその他に岩倉使節団及び子孫関連、米欧回覧実記関連、海外訪問地関連、歴史関連、関連図書・論文・エッセイなど興味ある情報があればお寄せ下さい。会員間の情報交換のページになれば幸いです。原則として一件二百字以内とします。

なお、他にレポート、エッセイ、論文の類も歓迎します。但し、その扱いについては幹事会にご一任ください。

『米欧回覧の会』ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。

この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えます。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい会合をもつ予定です。

事業 次のような活動をする予定です。

映像サロン・講演会・旅行会研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し、会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費3,000円とし、主として通信費および機関紙代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は『ミササ・オフィス』に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16 (ミササ) TEL 0426-46-1949 FAX 0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所) TEL・FAX 現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお、年会費は郵便払込が便利です。

00180-2-580729

米欧回覧の会

<催し案内>

★映像「岩倉使節団の世界一周旅行」の上映会(全十巻)

1997年12月6日(土) 10:30~17:30

白百合女子大学(調布)別紙案内通り

(映像グループ・企画グループ担当)

★第8回例会 講演と新年交歓パーティ

1998年1月28日(水) 18:00~21:00

国際文化会館ホール(国際交流グループ担当)

演題…「世界漫遊家の曙時代~岩倉使節団のころ」

講師…中川浩一氏(茨城大学名誉教授・観光文化史)

★分科会

・実記を読む会(第5回)11月6日(木)18:30~21:30

(第6回)12月4日(木)18:30~21:30

いずれも 場所 クラウンインターチェンジ

(03-5469-2090)

・歴史部会(第3回)11月21日(金)18:30~21:00

国際文化会館Cルーム

テーマ…明治憲法の成立事情(続編)

講師…水沢周氏(ノンフィクション作家)

・現未来部会(第3回)11月27日(木)18:00~21:00

国際文化会館Dルーム

テーマ…日本経済の方向性と21世紀の暮し

★関西支部の集り

1997年11月25日(火)13:00~17:00

大阪大学工業会会議室(近鉄堂島ビル20階)

(06-344-6171)

お問い合わせは

電話・FAXとも06-853-3137 山崎岳磨

★比較文明学会公開研究会

1998年1月11日(日)14:00~17:00

横浜国立大学教育文化ホール

演題…「知られざる岩倉使節団~比較文明の旅」

講師…泉 三郎氏

問い合わせ…045-339-3161へ

*編集後記

各グループの活動が活発になってきてまことに同慶のいたりですが、これからどこまでどのように展開していくのか、「岩倉使節」や「実記」と直接の関係がないところまでどんどん拡散してしまうのではないかと、ちょっと心配? ・ ・ ・ なくらいですね。でも幹事会は意外にのんきな雰囲気でのびるも縮むも自然体で ・ ・ ・ との構えのようです。しかし一つ気掛りなことがあります。メンバーの平均年齢のことです。少なくとも未来を語るにはもう少し若い世代を誘い込む必要がありますね。十二月六日の「映像の会」はその絶好のチャンスです。どうぞみなさんも若い世代をお連れ下さい。なお、前号での内緒話「小さなお願い」については、早速多くの方々からご好意あふれるお振込みをいただき感謝にたえません。小さな金庫はたちまちあふれんばかりになりました。これから御礼を申し上げます。